

**Q1. 近藤先生が日々診察するなかで、家族と接するのと同じように患者さんと向き合うため、意識していること、具体的に行動していることはありますか？**

**A.**

診察の時には毎回、意識して臨んでいる事として、先日も朝礼で職員の方々に「この気持ちで一日を意識しましょう」と話した事ですが、

まず、クリニックに入るまでには、その地域の街に歩いている人を必ず見かけます。

車を降りてクリニックのドアを開けるまでに、いつも自身に言い聞かせています。

この人たちの為に自分は今日、医療をさせて頂くのだ。と。

もし、この見ず知らずの人が自分の家族だとしたら、自分は精一杯の行動をこの人の為に難無くできるだろうと。視界に入った人に向かって、自身に言い聞かせています。

来る日も来る日もそう考えようと意識していると最近、

目の前にいる見ず知らずのその人が自分に近い人の様に感じて、愛着さえ感じて来ている自分に気づきます。この人たちの為に、自分はお手伝いするだけ。

この気持ちで、クリニックに入ります。

一番、大好きなのは、クレイマー。

大切な自分があるから、クレイムが怖い。

自分が試される時です。

本当に他者の為に、自分を小さくできているのか否かが試される。

医学的学識論理をクレイムされる事は有りませんが、医師としての医学的能力にすぎる気は毛頭ございません。

医者は、別に人間として偉い訳ではありません。

筋論クレイムを言われる方ほど、信頼関係を深く築くことができる。

自分の、自分への、或いは自分の能力へのプライドなんぞ持たない事は、相手へ対等に入れる第一段階でしょう。

同じ人間なのだから、理解されない、できない事は絶対に有り得ません！

と言う意識をベースに持って臨んでいます。

昨今は、マスコミが医者の方の不出来を伝えますので、患者さんは医療機関のプロフェッショナリズムに疑いを持って来ておられる方もお見受けします。

私たちは、人間力を持って臨む事で評価される事は基本条件と成って来ていますし、これは当然の事と受け止めています。

少し知的に話しますと、

「自由意志は人間の誇りの為に在るのではなくて、人間の謙虚の為に在ると考えなければ成らない。」（アウグスティヌス）